

## 「給水のためのタイムアウト(給水タイム)」の取り扱いについて (一部変更)

夏季の大会においては高温多湿の環境でバレーボール競技を行うと発汗により水分が失われたり、体温上昇などにより、熱けいれん、熱疲労、熱射病などの「熱中症」に陥ることがあります。熱中症予防の観点から、選手、審判団の健康管理を維持するために「給水のためのタイムアウト(以下、「給水タイム」とする)」を採用します。

### 給水タイムの手順

1. 各セットにおいて、リードするチームが13点目に達したとき、30秒間の給水タイムを自動的に適用する。
2. タイムアウトと同様に、副審がホイッスルで合図をして給水タイムに入る。30秒後に給水タイムの終了を副審がホイッスルで合図をする。
3. 最終セット(第3セット)については、チェンジコートをした後すぐに副審の吹笛により給水タイムを適用する。30秒後に6人がコート内に入り、メンバー確認(サーバー等)をしてゲームを再開する。
4. 給水タイムは、正規の試合中断の要求(タイムアウト、選手交代)やリベロリプレイスメント等より優先される。上記を行う場合は、給水タイム終了後にその手続きを行う。
5. コート内の選手は、ウォームアップエリア・ベンチ・自チームベンチ近くのフリーゾーンいずれの場所でも給水を行うことができる。
6. 給水タイムは、給水だけを目的としたものなので、選手(生徒のマネージャーも含む)だけで実施される。
7. ベンチスタッフ(監督・コーチ・マネージャー《生徒を除く》)は、選手およびマネージャー《生徒》との会話は認められない。ただし、副審による給水タイム終了の吹笛後であれば構わない。
8. 審判団も必要に応じて給水を行うことができる。
9. タイミングが遅れた場合は、確認できた時点で給水タイムを適用する。